### 平成30年住宅・土地統計調査 天草市調査結果

調査期日: 平成30年10月1日

調査対象:天草市内の782調査区のうち、総務省が指定した241調査単位区内から抽出した住宅及び住宅以外で人が居住する建物並びにこれらに 居住している世帯について調査した。

#### ※利用上の注意

- 1 統計表の数値は、表章単位未満の位で四捨五入しているため、総数と内訳の合計は必ずしも一致しない。 (1位を四捨五入して10位まで有効数字として表章)
- 2 総数に「不詳」の数を含むことから、総数と内訳の合計は必ずしも一致しない。
- 2 本調査は標本調査であるため、統計表の数値は標準誤差を含んでいる。
- 3 統計表中に使用されている記号等は、次のとおりである。
  - 「-」は、該当数値がないもの、又は数字が得られないものを示す。
  - ・「0」は、集計した数値が、表章単位に満たないものを示す。

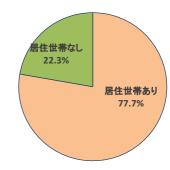
#### 第1表 居住世帯の有無別住宅数及び住宅以外で人が居住する建物数

住宅総数													
		居住世帯あり		居住世帯なし								空き家率	住宅以外 で人が居
総数					一時現在	空き家 建築						(%)	住する建
心奴	総数 同居世	同居世帯なし	同居世帯あり	総数	者のみ				その他の		(,0,	物数	
					ц	小心女人	宅	住宅	住宅	住宅			
40,620	31,580	31,560	20	9,040	40	9,000	180	1,560	120	7,130		22.2	200

「居住世帯のある住宅」は31,580戸で、総住宅数の77.7%となり、空き家、建築中の住宅などの「居住世帯のない住宅」は9,040戸で空き家率は、22.2%となっている。

空き家の内訳をみると、「賃貸用の住宅」が1,560戸で空家総数の17.3%、「売却用の住宅」120戸(同1.3%)と合わせると1680戸(同18.6%)は供給可能な住宅である。また、「その他の住宅」が7,130戸で同79.2%を占めている。空き家の「その他の住宅」とは、「賃貸用の住宅」「売却用の住宅」「二次的住宅」以外の住宅で、例えば転勤・入院などのため居住世帯が長期にわたって不在の住宅や、空き家の区分の判断が困難な住宅などを含む。

住宅総数に占める居住世帯の有無の割合



第2表 居住世帯のない住宅、住宅の種類別居住世帯のない住宅数

居住世帯のない住宅	総数	専用住宅	店舗その他の併用住宅
居住世帯のない住宅総数	9,040	8,700	340
一時現在者のみの住宅	40	40	1
空 き 家	9,000	8,660	340
建築中	_	-	ı

居住世帯のない住宅総数9,040戸のうち空き家が9,000戸で住宅総数の99.6%を占めている。空き家には共同住宅の空き室を含んでいる。

なお、一時現在者のみの住宅とは、「昼間だけ使用している」や、「何人かの人が交代で寝泊まりしている」など、そこにふだん居住している者が一人もいない住宅をいう。

第3表 住宅の種類・構造、建築の時期別住宅数

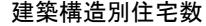
		住宅の	)種類	構造							
建築の時期	総数	専用住宅	店舗その他の 併用住宅	木造(防火木造 を除く) 防火木造		鉄筋・鉄骨コン クリート造	鉄骨造	その他			
住宅総数 ※	31,580	30,600	980	19,150	7,050	4,020	1,240	120			
昭和45年以前	7,060	6,890	170	5,860	940	130	120	10			
昭和46年~55年	5,690	5,450	240	3,840	990	720	90	60			
昭和56年~平成2年	5,600	5,360	250	2,870	1,320	1,220	190	_			
平成3年~12年	5,990	5,870	120	3,250	1,380	950	390	10			
平成13年~22年	3,550	3,500	50	1,690	1,190	510	140	20			
平成23年~27年	1,810	1,750	60	660	750	260	110	30			
平成28年~30年9月	660	640	20	280	280	30	60	_			

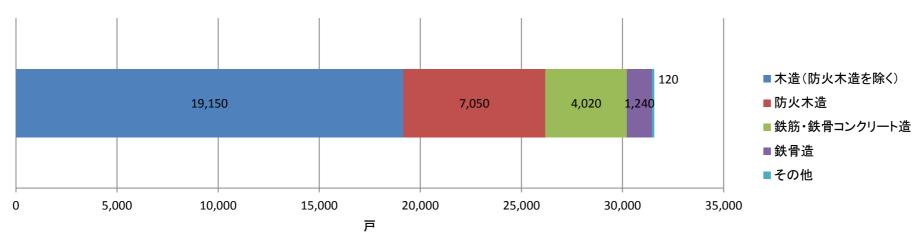
※建築の時期「不詳」を含む

住宅を種類別にみると、住宅総数31,580戸のうち専用住宅が30,600戸で住宅総数の96.9%、店舗その他の併用住宅が980戸で同3.1%を占めている。

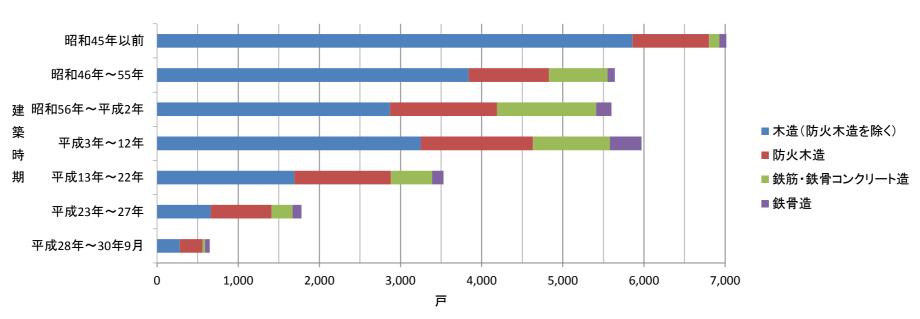
構造別にみると木造(防火木造を除く)が最も多く、19,150戸で同60.6%、次いで防火木造が7,050戸で同22.3%となっており、木造と防火木造を合わせると26,200戸で住宅総数の83%となっている。

また、建築時期別にみてみると、昭和45年以前に建築された住宅は、7,060戸で、全体の22.4%を占めている。一貫して木造(防火木造を含む)の割合が大きく、全ての 年代で7割を超えている。



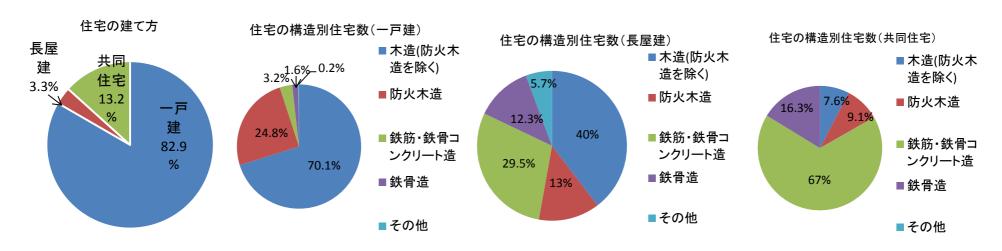


# 建築構造別住宅数(建築時期別)



第4表 住宅の建て方、構造、階数別住宅数

構造	総数		一戸建			長屋建				その他	
1年足	心奴	総数	1階建	2階建以上	総数	1階建	2階建以上	総数	2階建	3~5階建	ての他
住宅総数	31,580	26,170	8,860	17,310	1,050	390	660	4,180	2,120	2,060	170
木造(防火木造を除く)	19,150	18,350	6,670	11,690	420	270	150	320	320	_	60
防火木造	7,050	6,500	1,990	4,510	140	40	100	380	300	80	20
鉄筋・鉄骨コンクリート造	4,020	850	140	710	310	80	240	2,800	930	1,870	60
鉄骨造	1,240	410	50	360	130	_	130	680	570	110	20
その他	120	50	10	40	60	_	60	_	_	_	10



※ 四捨五入等により、必ずしも合計は、100%になるとは限らない。

住宅の状況を建て方別にみると、一戸建が26,170戸で、住宅全体の82.9%を占めており、長屋建が1,050戸(同3.3%)、共同住宅が4,180戸(同13.2%)、その他が170戸(同0.5%)となっている。

各建て方の階数別(建物全体の階数)別にみると、共同住宅では2階建が2,120戸(共同住宅総数の50.7%)、3~5階建が2,060戸(同49.3%)と均衡している。その他の建て方では、2階建以上の比率が高い。

住宅の構造を建て方別にみると、一戸建では木造(防火木造も含む)が24,850戸で、一戸建全体の95%を占めている。長屋建では木造(防火木造を含む)が560戸と、長屋建全体の約半数にとどまっている。また共同住宅では、非木造が3,480戸で、共同住宅全体の83.3%となっており、建て方により構造が大きく異なっている。

第5表 住宅の所有の関係、腐朽・破損の有無、建築の時期別住宅数

第3衣 住宅の所有の関係、腐竹・破損		有無、建業の時期別任七数 建築の時期										
住宅の所有の関係	141 MET									I _ n ·		
腐朽・破損の有無	総数	昭和45年	昭和46年	昭和56年	平成3年	平成8年	平成13年	平成18年	平成23年	平成28年		
减小		以前	~55年	~平成2年	~7年	~12年	~17年	~22年	~27年	~30年9月		
住宅総数 ※	31,580	7,060	5,690	5,600	2,960	3,030	1,740	1,810	1,810	660		
持ち家	24,130	6,370	4,640	3,890	2,070	2,190	1,250	1,360	1,390	560		
借家	7,200	690	1,050	1,710	890	840	490	450	420	100		
公営の借家	1,450	120	390	600	160	30	120	20	_	10		
都市再生機構・公社の借家	_	_	-	_	_	_	-	_	_	_		
民営借家(木造)	2,870	500	420	440	310	180	180	200	160	40		
民営借家(非木造)	2,170	10	130	500	370	510	150	160	170			
給与住宅	710	60	120	170	40	110	40	80	90	10		
腐朽・破損あり	3,060	1,080	750	510	140	150	60	110	30	_		
持ち家	2,130	860	570	320	110	150	60	-	20			
借家	870	220	170	180	30	_	10	110	10	_		
公営の借家	10	10	1	10	_	_	1	-	_	_		
都市再生機構・公社の借家	_	-	I	-	_	_	l	-	_	_		
民営借家(木造)	560	190	90	60	10	_	10	90	_	_		
民営借家(非木造)	180	10	60	40	10	_	l	10	10	_		
給与住宅	110	10	20	70	10	_	I	I	_	_		
腐朽・破損なし	28,520	5,980	4,940	5,100	2,810	2,880	1,680	1,700	1,780	660		
持ち家	22,000	5,510	4,070	3,570	1,960	2,030	1,190	1,360	1,370	560		
借家	6,330	470	880	1,530	860	840	480	340	400	100		
公営の借家	1,440	110	390	590	160	30	120	20	_	10		
都市再生機構・公社の借家	_		_						_			
民営借家(木造)	2,300	310	320	380	300	180	180	100	160	40		
民営借家(非木造)	1,990		60	470	360	510	150	140	160			
給与住宅	600	40	100	100	30	110	40	80	90	10		

住宅を所有の関係別にみると、持ち家が24,130戸で、住宅全体に占める割合(持ち家住宅率)は、76.4%となっており、借家は7,200戸で、同22.8%となっている。

腐朽・破損がある住宅は、3,060戸で、住宅全体の9.7%となっており、それを建築時期別にみると、昭和45年以前に建てられた住宅が1,080戸で同34.2%を占めている。

第6表 建築の時期、住宅の購入・新築・建て替え等別持ち家数

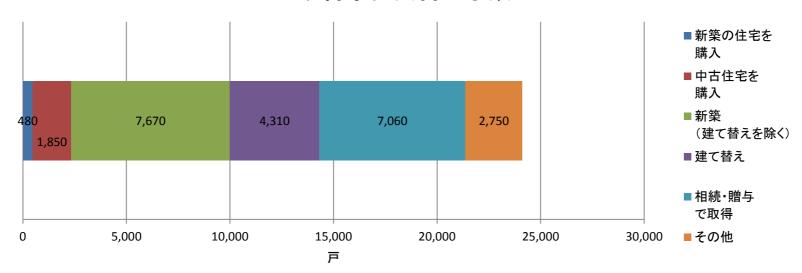
建築の時期	総数	新築の住宅を 購入	中古住宅を 購入	新築 (建て替えを除く)	建て替え	相続・贈与 で取得	その他
持ち家総数 ※	24,130	480	1,850	7,670	4,310	7,060	2,750
昭和45年以前	6,370	20	360	580	610	3,890	900
昭和46年~55年	4,640	50	490	1,180	790	1,470	660
昭和56年~平成2年	3,890	10	310	1,320	940	750	570
平成3年~12年	4,260	150	420	2,010	970	380	320
平成13年~22年	2,610	90	170	1,400	590	250	110
平成23年~27年	1,390	80	50	810	280	100	80
平成28年~30年9月	560	70	30	300	80	50	30

※建築の時期「不詳」を含む

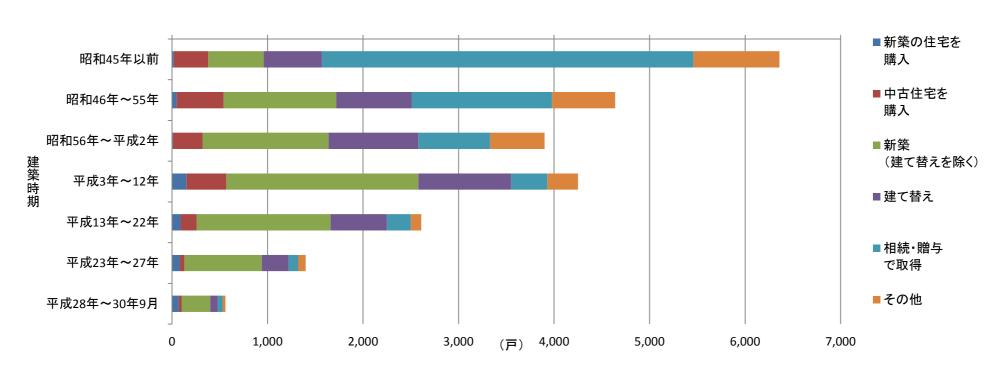
持ち家総数24,130戸を取得方法別にみると、新築(建て替えを除く)が7,670戸(持ち家総数の31.8%)と最も多く、次いで相続・贈与で取得が7,060戸(同29.3%)、建て替えが4,310戸(同17.9%)、中古住宅を購入が1,850戸(同7.7%)、新築住宅を購入が480戸(同2.0%)となっている。

また、持ち家の取得方法を建築時期別にみると、昭和45年以前に建築された住宅では、相続・贈与で取得した住宅の比率が高いが、後の年代では、その比率は低下している。一方で、新築で取得した住宅の比率は、年々高まっている。

### 取得事由別持ち家数



# 取得事由別持ち家数(建築時期別)



第7表 平成26年以降における住宅の耐震診断の有無、耐震改修工事の状況別持ち家数

315 - 24 - 1 374 - 1 - 1 - 1 - 1 - 1 - 1 - 1 - 1 - 1 -								
平成21年以降における住宅の耐震診断の有無	総数	耐震改修工事をした						耐震改修工事をしていない
		総数 ※	壁の新築・補強	筋かいの設置	基礎の補強	金具による補強	その他	
持ち家総数	24,130	350	120	160	150	140	60	23,780
耐震診断をした	830	140	70	50	60	70	20	700
耐震性が確保されていた	760	100	50	30	40	30	20	660
耐震性が確保されていなかった	80	40	20	20	20	40	_	40
耐震診断をしていない	23,300	210	50	110	90	80	40	23,090

※複数回答であるため、内訳の合計等は必ずしも一致しない。

持ち家総数24,130戸のうち、平成26年以降に耐震診断をした住宅は830戸(持ち家総数の3.4%)で,耐震診断をしていない住宅は、23,300戸(同96.6%)であった。

第8表 平成26年以降のリフォーム工事の状況、腐朽・破損の有無、建築の時期別持ち家数

第0次 十成20十次阵のブラオーム工事の状況、例で、収貨の有無、建業の時期が行う多数															
	住宅の所有の関係							建築の時期							
	腐朽・破損の有無							総数	昭和45年	昭和46年	昭和56年	平成3年	平成13年	平成23年	平成28年
									以前	~55年	~平成2年	~平成12	~22年	~27年	~30年9月
持ち家総数	持ち家総数 ※							24,130	6,370	4,640	3,890	4,260	2,610	1,390	560
腐	朽	•	破	損	あ	IJ		2,130	860	570	320	260	60	20	ı
腐	朽	•	破	損	な	し		22,000	5,510	4,070	3,570	3,990	2,550	1,370	560
リフォーム工事	を行	った						7,270	2,200	1,630	1,470	1,160	370	280	160
腐	朽	•	破	損	あ	IJ		580	240	170	100	70	_	_	_
腐	朽	•	破	損	な	し		6,680	1,960	1,450	1,370	1,080	370	280	160
リフォーム工事	リフォーム工事を行っていない						16,680	4,160	3,010	2,430	3,100	2,240	1,110	400	
腐	朽	•	破	損	あ	IJ		1,550	620	400	230	190	60	20	-
腐	朽	•	破	損	な	し		15,320	3,540	2,610	2,200	2,910	2,180	1,090	400

※建築の時期「不詳」を含む

持ち家総数24,130戸のうち、腐朽・破損がある住宅は2,130戸で持ち家全体の8.8%となっている。また、リフォーム工事を行ったのは7,270戸で同30.1%、リフォーム工事を行っていないのは16,680戸で同69.1%となっている。

リフォーム工事を行った持ち家を建築時期別にみると、「昭和45年以前」が2,200戸でリフォーム工事を行った持ち家全体の30.3%、「昭和46年~55年」が1,630戸で同22.4%、「昭和56年~平成2年」が1,470戸で同20.2%、「平成3年~平成12年」が1,160戸で同16.0%と、リフォーム工事を行った住宅は、概ね「昭和」に建築された住宅で、その合計は5,300戸で同72.9%となっている。